コロナ禍乗り越えた４人の絆　プレーでもコート外でも!!

いざインカレ出場へ 私たちが導く 女子バスケ

4年生がシンボル

コロナ禍を乗り越えてきた４人がチームを引っ張る。江戸川大学女子バスケットボール部の４年生、倉林奈穂（経営社会、千葉・昭和学院高）、大川実莉（こどもコミュニケーション、茨城・水城高）、梶山緋依（情報文化、千葉・麗澤高）、辻碧依（こどもコミュニケーション、埼玉・草加西高）は、過去のどの世代にもなかった学生生活を経験した。チームのシンボルである最上級生となってインカレ出場を目指す。

順大戦でドリブルする倉林（左上）チームを引っ張る４年生の（左から大川、辻、倉林、梶山）

同学年10→4人に

入学した2020年、入学式はなく、4月を迎えても部活動はなし。部の始動は6月13日だった。梶山は「試合が9月に始まると聞いていたので、すぐにチームになじめるのか不安だった」と振り返る。活動開始後もチーム内に陽性者が出れば、2週間はオンライン指導での個別トレーニングになった。2年生になっても大学の講義はオンライン。最初は10人いた同学年は、最終的に4人になった。

主務の辻は「4人になって最後までやり切ろうと思えている」と苦難をともにした絆を強調する。一つ上はWリーグのアイシンに進んだサンブ・アストゥを中心にした強力な学年だった。だが今年の4年も一体感では負けていない。石川優希監督が掲げるハードなディフェンスから速攻につなげるスタイルを徹底し、インカレ出場と1部昇格を目指す。

下級生の時から試合に出場する主将の倉林は「一つ上の先輩達は全員試合に出ていて、プレー面でもほかの面でもいろんなものを残していってくれた。終わった時に江戸川バスケットボール部に何かを残すのはもちろん、結果もしっかり残して後輩たちにつなげたい」と力強く話した。

悔い残らぬように

大川は最上級生の自覚について「4年の役割はシンボル」と即答する。全ての点でチームの顔となることを意味する。大川は「私はまだプレーであまり絡んでいないので、声で引っ張りたい」と貢献を誓い「残っている4人はバスケに対する強い気持ちを持っている。悔いの残らないように頑張りたい」と決意を述べた。4人と少なくても、いや少ないからこそ輝くシンボルがある。

４年生のサポートお任せあれ

チームのカギを握る２、３年生

４人の４年生をサポートするのは頼もしい２、３年生たちだ。チームのカギを握る好選手がそろっている。

緒方偲乃（経営社会３年、東海大福岡高）はリバウンドや寄せて相手を自由にさせないディフェンスなど、フィジカルなプレーを厭わない。「今までは満足する成績ではない」と更なる躍進を誓う。内に切れ込むドライブにも注目だ。

チームスタイルの堅守速攻の「速攻」の中心に蛭町真歩（こどもコミュニケーション３年、千葉・昭和学院高）がいる。スピードを生かしたカウンターが得意。ドリブルの初速をトップスピードに持っていけるよう意識をしているという。「全ての

緒方

蛭町

細野

プレーでスピードを生かすことは難しい。前にスペースがある時は積極的に狙う」とメリハリが相手を翻弄する。

細野未琉香（経営社会２年、千葉・市柏高）は１年時から公式戦に出場する期待のセンター。センターでありながら、外からのシュートとドライブにも自信を持っている。緒方と蛭町は「２部残留を懸けた一戦で勝ちにつなげてくれた」と勝負強さを認める。

漫画キャラにたとえてみました ～「黒子のバスケ」編～

入澤楓→青峰大輝（桐皇学園高）

経営社会
３年
沖縄・
普天間高

青峰並みの独創的なドリブラー。試合では鋭い切込みでチームのために突破口を開く。

篠崎夢姫→黄瀬涼太（海常高）

経営社会
３年
千葉・
拓大紅陵高

練習でも試合でもチームのムードメーカー的な存在。どんなプレーでもできる器用さも黄瀬と同じ。

エズゴ梨々杏→火神大我（誠凛高）

経営社会
２年
千葉・
昭和学院高

圧倒的なジャンプ力は火神に匹敵。試合でも相手の想像を超えるジャンプ力を生かしたプレーが光る。

五月女優羽→黒子テツヤ（誠凛高）

こどもコミュニケーション
２年
栃木・
作新学院高

陰のパサー、チームの黒子。巧みなパスでチャンスを量産する。周りを生かしたいという志も黒子との共通点だ。

取材後記

【１面】

▼大庭太輝　バスケの試合のスピード感と迫力に圧倒されました。ご協力いただいた男子バスケ部の皆さま、ありがとうございました。

▼逸見洸縁　アポ取りや日時調整、写真撮影等、さまざまな点が難しかったですが、楽しく感じました。関係者の皆さまに感謝申し上げます。

【２面】

▼岩崎武瑠　絶対に将来役立つ経験になりました。取材の大変さを学ぶことができました。サッカー部の皆さま、ありがとうございました。

▼織戸駿哉　各部の取材を通じて江戸川大学の魅力をより感じました。取材にご協力いただいた皆さま、ありがとうございました。

【３面】

▼内野萌　新聞を作る大変さを知ることができて良かったです。ご協力してくださった皆さま、ありがとうございました。

▼髙城和未　新聞制作は難しかったですが楽しいなと感じました。スポーツの試合を現地で見たのは高総体以来で、迫力を感じました。

▼榎本楽　新聞制作は初めてで難しかったですが、自分の言葉を記事化できて楽しかったです。バレー部の皆さんありがとうございました。

【終面】

▼枝川皓輔　バスケットボールの試合は迫力があり、写真撮影が難しかったです。女子バスケ部の皆さま、ありがとうございました。

▼野澤成康　協力して新聞製作することができました。取材に応じてくださった女子バスケ部の皆さま、ありがとうございました。

☆紙面編集　枝川皓輔、野澤成康

スポニチ

スポニチ宅配版もどうぞ
または最寄りの毎日新聞販売店へ
申し込みはフリーダイヤル
読む人に一礼
0120・4612・10
24時間OK

ローソン
ファミリーマート
セブン-イレブン
ミニストップ、デイリーヤマザキ、セイコーマートでも購入できます
◆コンビニでの購入方法◆
マルチコピー機の液晶画面をタッチ
プリントを選択
コンテンツサービスを選択
コンテンツプリントを選択
eプリントサービスを選択
地方紙・海外新聞・業界紙・専門紙を選択
スポーツ紙を選択
スポプリを選択
購入する商品を選択
商品内容を確認し購入を選択
商品内容を確認し次へ進むを選択
料金を投入しプリント開始を選択
料金を投入しプリントスタートを選択